

平成15年度総会・特別講演会報告

Report on the JSPME General Assembly 2003 and the Special Lectures

ホソカワミクロン(株)粉体システムカンパニー 医薬グループ
HOSOKAWA MICRON CORPORATION
Powder Processing Systems Company Pharm. Group

神谷 昌良
Masayoshi KAMIYA

平成15年度の製剤機械技術研究会総会、および、特別講演会が4月15日（火曜日）、文京シビックセンター小ホール（東京都文京区）にて開催された。（写真1）総会には60名、特別講演には100名以上の参加者があった。

1. 総会

総会の出席者は328名（委任状を含む）であり、会員総数814名の4分の1以上を満したため、会則に基づいて総会が成立した。開会にあたって寺田勝英会長より挨拶があった。1991年、仲井由宣先生のもとに発足してから13年目を迎え、研究大会、講演会、ワークショップ、シンポジウム、工場見学を行なうまで発展を続けてきた。さらに、昨年より教育研修会を新設し、若手技術研究者の教育研修活動を実施した。予想以上の好評を得たので、今年も更なる充実を図りたい。また、昨年、薬事法の改正、製造承認から販売承認への移行が強まり、製薬業界の再編が予想される。本研究会においても、国内外の動向に関心を持ちつつ産官学が協力し、製剤技術および、製剤機械技術の発展に更なる貢献をするよう努めたいと抱負を述べられた。

議長選出（寺田勝英会長）後、議事に入った。まず、愛知紘治副会長より平成14年度会務報告〔第1号議案〕があり（資料1）、工場見学、会誌発行、各種委員会の活発な活動などについて説明された。次に小野里公重副会長より平成14年度決算報告〔第2号議案〕がなされ（資料2）、最後に砂田久一監事より監査報告がなされた。続いて審議事項に入り、愛知紘治副会長が平成15年度会務計画案〔第3号議案〕（資料3）について、小野里公重副会長が平成15年度予算案〔第4号議案〕（資料4）について説明され、満場一致で採択された。また寺田勝英会長より、会則変更〔第5号議案〕が提出され（資料5）、同様に満場一致で採択された。そして松田芳久副会長から役員交代の報告があった。小山典利常任委員が安藤英信氏（エーザイ(株)製剤研究所 工業化センター センター長）に、鈴木裕介常任委員が佐藤耕治氏（塩野義製薬(株)製造本部 製造技術部 部長）に、菅野良一委員が藤田定明氏（藤沢薬品工業(株)生産技術部 部長）に、丸山英之委員が花村聡氏（株）ツムラ 研究本部 製剤品質研究所 グループ長）にそれぞれ交代された。

続いて松田芳久選考委員長より、第3回「製剤機



写真1



挨拶する寺田会長

械技術研究会仲井賞」の受賞者として、中道孝一氏の決定が報告された。受賞テーマは「新しい製剤設計法としての加熱熔融混練技術の開発と応用展開」である。本研究は混練装置であるエクストルーダーを用いて、難溶性医薬品の可溶化をはかるための製剤技術確立したもので、医薬品製剤の非溶媒化と再現性が確保された固体分散体製法への応用の道を開いたものとして、新規性が評価できる。なお授賞式は、10月6日～7日に開催される第13回大会において行なわれ、併せて受賞講演も行なわれる。

2. 特別講演会

総会に続いて2題の特別講演が行なわれた。最初の講演は「人道的地雷除去支援のための地雷探知ロボット・小型無人ヘリコプタの開発」と題し、野波健蔵先生（千葉大学工学部電子機械工学科）そして、2題目は「経口固形製剤の製法変更の生物学的同等試験ガイドラインについて」で、青柳伸男先生（国立医薬品食品衛生研究所 薬品部）が講演された。以下、その講演概要について報告する。

2-1 人道的地雷除去支援のための地雷探知ロボット・小型無人ヘリコプタの開発

今日、地球上に約1億個の対人地雷が埋没され、年間2万5千人の犠牲者を出している。近年人道的立場から地雷除去活動が進められているが、地雷原には対人地雷、対戦車地雷、不発弾が混在し、熟練作業員による手作業が依然中心となっている。アフガニスタン、カンボジアなどの現況（地雷除去作業中の人的事故）から、地雷処理の困難さを十分把握する。そこで作業員の安全性を考慮に入れた高効率な機械化、さらにロボット化への要望が高まる。本

研究では、困難を極める埋没された対人地雷探知について、地雷原という極限環境を自在かつ安全に移動することができる6足型歩行ロボット（先端計測技術とその技術を搭載した自律型ロボット）を提案し、その開発を進めている。今回、その試作機から、実証機への改良の経緯を紹介いただいた。尚、



講演される野波健蔵先生

実機相当の実証機、地雷探知ロボットCOMET-IIIでは

- ① アレイ型複合センサによる地雷探知作業
- ② センサヘッドのギャップ制御、障害物回避
- ③ GPSによるマッピング
- ④ 地雷埋設位置の種類別カラーマーキング
- ⑤ GPSによる軌道追従制御
- ⑥ CCDカメラのステレオビジョンによる障害物回避
- ⑦ インピーダンス制御による地雷回避制御
- ⑧ 位置と力のハイブリット制御
- ⑨ スーパーバイザー制御・マルチタスク協調制御
- ⑩ 草刈り機の自動制御
- ⑪ 脚・クローラの自動選択型自律制御
- ⑫ 地雷処理ロボットを含む群制御
- ⑬ マニピュレータ・ハンドによる危険物把持制御

の機能を有する。①から⑪までのタスクを3台のコンピュータが並列処理し、これら全体を1つのスーパーバイザーコンピュータが統括する。同時にオペレーターがいる基地に設置してあるホストコンピュータと通信し、地雷探知データなどのデータベースを順次作成する。

アフガニスタン、カンボジアなど世界の紛争・戦争終結地域で、地雷探知作業に従事できるロボット

として、実現する日も近いと思われる。

同様に、散布地雷や平坦な地雷原での埋没地雷の探知については、完全自律型小型無人ヘリコプタを提案し、その開発が終盤を向かえている。今後、実際に地雷センサを装備し、地面との設置方式または一定の距離制御を行なう方式により探知実験に入る予定である。また、この技術は地雷探知以外にも送電線点検作業や災害時の情報収集、レスキュー、血液輸送などさまざまな応用が考案されるので、完成が切望される。

2-2 経口固形製剤の製法変更の生物学的同等試験ガイドラインについて

医薬品の製法変更は、製剤特性に影響を与え、バイオアベイラビリティに変化をもたらす可能性があるにもかかわらず、これまで製法変更に伴う生物学的同等性試験が規定されていなかった。一方、欧米ではガイドラインで、スケールアップを含めた製法および、処方変更に対し、生物学的同等性の確認を要求している。日本においても、医薬品の品質の恒常性を維持する上でその確認は不可欠である。そこでこの試験法を確立すべく、厚生労働科学研究「医薬品製造工程などの変更が品質に与える影響および、品質確保のあり方に関する研究」を立ち上げた。講演では、通常製剤および腸溶性製剤の製法変更



講演される青柳伸男先生

に対する生物学的同等性試験ガイドライン案の内容を具体的に紹介し、その有効性、必要性、製法の変更水準の区分、要求される試験のあり方などを説明された。日米EU医薬品規制調和国際会議（ICH）で、CTD（ICH-5で最終合意に達した日米EU共通の医薬品の承認申請様式）が調和され、まもなく日本の承認システムが製造承認から製造販売承認へ移行する上でも、スケールアップ、製法変更、委託製造において、本ガイドラインは重要な役割を果たすと考えられる。

製剤機械技術研究会

平成 14 年度会務報告

平成 15 年 4 月 15 日

会 務	回数	開催日	場 所	参加者 (名)
工場見学会 (19回～21回)	3	2月8日	シオノギクオリカプス(株)本社工場	73
		6月21日	トヨタ自動車(株)元町工場	52
		11月15日	エスエス製薬(株)成田工場	120
平成 14 年度 総会・特別講演会	1	4月15日	シビック小ホール (東京・文京区)	総会 (含委任状) 426 特別講演会 160
第 1 回教育研修会	7	5月25日 ～11月16日	東邦大学他	263
第 11 回講演会	1	7月19日	大阪千里ライオンセンター	153
第 12 回大会	1	10月7日 ～8日	江戸川区総合区民ホール (大ホール)	大会 295 会員交流会 137
第 3 回製剤機械技術 シンポジウム	1	12月5日	星薬科大学	230
会誌発行	4	3月, 6月, 9月, 12月 Vol. 11 No1～No4		
平成 14 年度版 会員名簿発行	1	9月		

会 務	回数	
・ 役員会	1	・ 総開催数 73 回 (平成 13 年度 56 回)
・ 常任委員会	3	
・ 正副会長会議	8	
・ 第 12 回大会実行委員会	7	
・ 第 13 回大会実行委員会	1	
・ 第 11 回講演会実行委員会	2	
・ 第 3 回シンポジウム実行委員会	3	
・ 国際委員会 (含 T・TWG)	5	
・ 会誌編集委員会	7	
・ 拡大編集委員会	1	
・ 工場見学会実行委員会	8	
・ ホームページメンテナンス委員会	6	
・ GMP 常任委員会	10	
・ GMP 日薬連合同会議	5	
・ 教育委員会	6	

製剤機械技術研究会

平成14年度収支決算報告書

(自：平成14年1月1日 至：平成14年12月31日)

〔収入の部〕

〔単位：円〕

大科目	小科目	年度予算	年度決算	備考
会費収入	事業体会費	39,600,000	40,100,000	196社×20万、9社×10万 注1
	個人会費	1,175,000	1,170,000	234名×5000
	小計	40,775,000	41,270,000	
事業収入	講演要旨集 広告代	750,000	600,000	12社×50,000
	” 頒布代	42,000	53,000	15部×3500, 1部×500
	会誌 広告代	3,600,000	4,044,000	35～38号
	” 頒布代	50,000	59,500	58部×1000, 1部×1500
	略語記号集 頒布代	15,000	15,000	5部×3,000
	大会展示 小間代	900,000	780,000	13小間×60,000
	大会個人会員参加費	300,000	340,000	34名×10,000
	” 非会員参加費	250,000	100,000	2名×50,000
	” 交流会参加費	720,000	840,000	105名×8,000
	講演会非会員参加費	50,000	80,000	8名×10,000
	教育研修会参加費 (8回)	3,000,000	3,100,000	31名×100,000
	教育研修会宿泊費 (1回)	360,000	372,000	31名×12,000
	教育研修会交流会費	240,000	248,000	31名×8,000
	シンポジウム非会員参加費	50,000	300,000	30名×10,000
	ハンドブック編集手数料	720,000	648,000	90部×7,200
	小計	11,047,000	11,579,500	
雑収入		50,000	126,003	受取送料・他
受取利息		46,000	23,608	預金利息
前年度前受金振替額		▲ 15,000	▲ 15,000	
収入計		51,903,000	52,984,111	
預り金 (源泉所得税)		810,000	938,276	
前期繰越金		44,577,327	44,577,327	H13年末現・預金残高
今期収入合計		97,290,327	98,499,714	

注1. 中途入・退会した会費10万円の事業体は、入会は4社、退会は5社

[支出の部]

[単位 : 円]

大科目	小科目	年度予算	年度決算	備考
出版物費	会誌編集刊行費	5,600,000	5,947,886	36号～39号：含別刷り
	会誌原稿料	1,100,000	1,034,481	同上
	要旨集刊行費	600,000	682,500	1,050部
	会員名簿刊行費	500,000	443,940	950部
	GMP手順書刊行費	540,000	0	次年度に発行予定
	シンポジウム資料集	200,000	23,520	300部（製本代のみ）
	小計	8,540,000	8,132,327	
事業費	総会費	830,000	559,499	文京区シビック小ホール
	大会費	6,500,000	3,815,981	江戸川区民会館大ホール
	大会展示小間代	900,000	821,100	13小間
	工場見学会（3回）	600,000	451,066	第19～第21回
	講演会費	1,100,000	882,713	
	教育研修会費	3,000,000	3,021,761	新規事業
	教育研修会宿泊費	360,000	358,000	31名で実施
	教育研修会交流会費	240,000	235,800	
	シンポジウム費	750,000	481,579	星薬科大学大講堂
	仲井賞	150,000	190,720	
	小計	14,430,000	10,818,219	
事業所費	賃貸料（メリノビル）	3,257,100	3,257,100	月額：271,425
	水道光熱費	500,000	427,861	
	清掃料	170,100	170,100	月額：14,175
	小計	3,927,200	3,855,061	
管理費	会議費	1,340,000	1,303,972	
	役員委員交通費	1,830,000	1,507,000	
	出張交通費	960,000	250,950	
	事務用品費	1,050,000	1,014,566	
	事務機リース料	982,800	1,171,513	
	新聞図書費	100,000	73,540	
	消耗器具備品費	50,000	35,447	
	一般消耗品費	60,000	23,770	
	通信費	1,300,000	977,750	
	発送配達費	50,000	5,325	
	印刷費	200,000	28,035	
	業務委託費	84,000	155,109	会計事務所との指導・相談
	謝礼品費	50,000	2,100	
	交際費	50,000	0	慶弔費
	公租公課	70,000	76,500	都民税
小計	8,176,800	6,625,577		

[単位 : 円]

大科目	小科目	年度予算	年度決算	備考
人件費	給料	13,500,000	13,487,500	局員4名
	交通費	1,050,000	907,490	
	アルバイト料	100,000	49,000	学生、不定期
	小計	14,650,000	14,443,990	
	保険料	250,000	234,009	
	海外出張費	500,000	0	
	ホームページメンテナンス費	500,000	419,881	
	予備費	200,000	155,400	受賞者4名の楯代金
	雑費	50,000	28,875	送金手数料金等
	前払金	450,000	636,404	次年度の会場予約金
	前年度前払金振替額	▲ 465,100	▲ 465,100	前年度分会場予約金
	固定資産除去廃棄損	293,341	293,341	PCの廃棄、但し実質支出なし
	小計	1,778,241	1,302,810	
	支出計	51,502,241	45,177,984	
	積立金(2年度)	2,000,000	2,000,000	
	預り金(源泉所得税)納付額	960,000	1,065,657	
	当期余剰金(次期繰越金)	42,828,086	50,256,073	
	今期支出合計	97,290,327	98,499,714	

上記の通りであります。

平成15年1月21日

製剤機械技術研究会 会長 寺田 勝英



上記計算書及び帳簿等による監査の結果、いずれも正確なものと認めます。

平成15年1月29日

製剤機械技術研究会 監事 砂田 久一



同 同 猪狩 康孝



[預金・現金残高内訳]

定期預金	34,500,000
積立金	4,000,000
普通預金(会長)	9,939,615
普通預金(局長)	3,716,769
郵便貯金	0
現金	393,030
合計	52,549,414

平成 15 年度会務計画

平成 15 年 4 月 15 日

会 務	日 程	場 所	実行委員長	備 考
第 22 回工場見学会	2 月 21 日(金) 3 月 20 日(木)	日本新薬㈱ 小田原総合製剤工場	小澤実行委員長	参加募集 120 名
総会・特別講演会	4 月 15 日(火)	文京シビック 小ホール	服部実行委員長	特別講演 2 題
第 2 回教育研修会	5 月末より 7 回	OVAT、東邦大学 他	愛知実行委員長	参加募集 30~50 名
第 23 回工場見学会	6 月 6 日(金)	澁谷工業㈱	小澤実行委員長	参加募集 150 名予定
第 12 回講演会	8 月 22 日(金)	静岡県立大学	園部実行委員長	
第 13 回大会 (京都)	10 月 6 日(月) ~7 日(火)	京都国際会議場	今井実行委員長	会員交流会
第 24 回工場見学会	11 月 日()	未定	小澤実行委員長	
第 4 回製剤機械技術 シンポジウム	12 月 5 日(金) 予定	文京シビック 小ホール	武田実行委員長	
会誌の発行	(発行月) 3・6・9・12 月	事務局	愛知編集委員長	
平成 15 年度版 会員名簿発行	9 月	事務局		

各委員会開催予定

(平成 15 年度)

・ 総会・特別講演会実行委員会	1 回
・ 役員会	1 回
・ 常任委員会	3 回
・ 正副会長会議	6~7 回
・ 正副委員長会議	3 回
・ 第 13 回大会実行委員会	6~8 回
・ 第 12 回講演会実行委員会	2~3 回
・ 第 4 回シンポジウム実行委員会	5~6 回
・ 国際委員会	5~6 回
・ 会誌/論文 編集委員会	5~6 回
・ 工場見学会実行委員会	6~8 回
・ ホームページメンテナンス委員会	6~7 回
・ GMP 委員会関係	9~10 回
・ 教育委員会	6~8 回
・ 第 14 回大会実行委員会	1~2 回

製剤機械技術研究会

平成15年度収支予算

(自：平成15年1月1日 至：平成15年12月31日)

[収入の部]

[単位：円]

大科目	小科目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備考
会費収入	事業体会費	39,600,000	40,100,000	39,000,000	195社×200,000
	個人会費	1,175,000	1,170,000	1,125,000	225名×5,000
	小計	40,775,000	41,270,000	40,125,000	
事業収入	講演要旨集 広告代	750,000	600,000	600,000	15社×50,000
	” 頒布代	42,000	53,000	0	本等販売費に含める
	会誌 広告代	3,600,000	4,044,000	3,800,000	40号～43号
	” 頒布代	50,000	59,500	0	本等販売費に含める
	略語記号集 頒布代	15,000	15,000	0	本等販売費に含める
	大会展示 小間代	900,000	780,000	0	展示しない
	大会個人会員参加費	300,000	340,000	500,000	個人・非会員参加費
	” 非会員参加費	250,000	100,000	0	上に含める
	” 交流会参加費	720,000	840,000	720,000	90名×8,000
	講演会非会員参加費	50,000	80,000	50,000	5名×10,000
	教育研修会参加費 (8回)	3,000,000	3,100,000	5,300,000	30名×130,000
	教育研修会宿泊費 (1回)	360,000	372,000	0	20名×3万
	教育研修会交流会費	240,000	248,000	0	40名×2万
	シンポジウム非会員参加費	50,000	300,000	100,000	10名×10,000
	ハンドブック編集手数料	720,000	648,000	0	本等販売費に含める
	本等販売費/版権料	—	—	750,000	昨年実績 811,500
	工場見学参加費	—	—	200,000	23回見学会より徴収
小計	11,047,000	11,579,500	12,020,000		
雑収入	50,000	126,003	80,000	受け取り手数料等	
受取利息	46,000	23,608	25,000		
前年度前受金振替額	-15,000	-15,000	0		
収入計	51,903,000	52,984,111	52,250,000		
預り金(源泉所得税)	810,000	938,276	960,000		
前期繰越金	44,577,327	44,577,327	52,549,414		
今期収入合計	97,290,327	98,499,714	105,759,414		

[支出の部]

[単位 : 円]

大科目	小科目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備考
出版事業	会誌編集刊行費	5,600,000	5,947,886	7,400,000	原稿料A4版移行
	会誌原稿料	1,100,000	1,034,481	0	刊行費に含める
	要旨集刊行費	600,000	682,500	0	大会費に含める
	会員名簿刊行費	500,000	443,940	500,000	900部
	GMP手順書刊行費	540,000	0	800,000	配布、販売を行う
	シンポジウム資料集	200,000	23,520	0	シンポジウム費に含める
	小計	8,540,000	8,132,327	8,700,000	
研究技術 講演事業 費	総会費	830,000	559,499	700,000	
	大会費	6,500,000	3,815,981	7,000,000	
	大会展示小間代	900,000	821,100	0	展示しない
	講演会費	1,100,000	882,713	900,000	
	シンポジウム費	750,000	481,579	700,000	資料印刷代を含む
	仲井賞	150,000	190,720	150,000	
	小計	10,230,000	6,751,592	9,450,000	
委員会 活動費	執行委員会	—	—	1,000,000	
	教育委員会	—	—	300,000	
	教育研修会費	3,000,000	3,021,761	5,300,000	
	教育研修会宿泊費	360,000	358,000	0	研修会費に含める
	教育研修会交流会費	240,000	235,800	0	研修会費に含める
	工場見学会費	600,000	451,066	1,000,000	バス使用/遠方開催
	HPメンテナンス委員会費	500,000	419,881	1,000,000	用語集追加収載
	GMP委員会費	—	—	800,000	今年度は全体会議を計画
	会誌編集委員会費	—	—	500,000	拡大編集委員会を含む
	国際委員会費	—	—	400,000	
小計	4,700,000	4,486,508	10,300,000		
管理費	会議費	1,340,000	1,303,972	0	項目の変更に伴い削除
	役員委員交通費	1,830,000	1,507,000	0	項目の変更に伴い削除
	出張交通費	960,000	250,950	250,000	事務局関係
	事務用品費	1,050,000	1,014,566	1,050,000	
	事務機リース料	982,800	1,171,513	900,000	事務機器を改善
	新聞図書費	100,000	73,540	80,000	
	消耗器具備品費	50,000	35,447	40,000	
	一般消耗品費	60,000	23,770	0	消耗器具備品費に含める
	通信費	1,300,000	977,750	1,010,000	
	送配達費	50,000	5,325	0	通信費に含める
	印刷費	200,000	28,035	0	予備費に含める
	業務委託費	84,000	155,109	100,000	H14年度決算報告他
	謝礼品費	50,000	2,100	30,000	
	交際費	50,000	0	30,000	慶弔費
	公租公課	70,000	76,500	80,000	都民税
小計	8,176,800	6,625,577	3,570,000		

[単位 : 円]

大科目	小科目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備考
事業所費	賃貸料（メリノビル）	3,257,100	3,257,100	3,257,100	月額：271,425
	水道光熱費	500,000	427,861	500,000	
	清掃料	170,100	170,100	170,100	月額：14,175
	小計	3,927,200	3,855,061	3,927,200	
人件費	給料	13,500,000	13,487,500	13,900,000	局員4名
	交通費	1,050,000	907,490	1,000,000	
	アルバイト料	100,000	49,000	100,000	
	小計	14,650,000	14,443,990	15,000,000	
保険料	250,000	234,009	250,000		
海外出張費	500,000	0	500,000		
調査費	—	—	200,000		
ホームページメンテナンス費	500,000	419,881	0	HPメンテ委員会に含める	
予備費	200,000	155,400	500,000		
雑費	50,000	28,875	50,000		
前払金	450,000	636,404	400,000		
前年度前払金振替額	-465,100	-465,100	-636,404		
固定資産除去廃棄損	293,341	293,341	0		
小計	1,778,241	1,302,810	1,263,596		
支出計	51,502,241	45,177,984	52,210,796		
積立金（3年度）	2,000,000	2,000,000	2,000,000	15周年記念事業	
預り金（源泉所得税）納付額	962,593	1,065,657	1,000,000		
当期余剰金（次期繰越金）	42,828,086	50,256,073	50,548,618		
今期支出合計	97,290,327	98,499,714	105,759,414		

会 則 の 変 更

変 更 案	現 行
<p>会則、第三章 会則の項 第6条 変更なし</p> <p>第7条に(1)を追加 (1) 個人会員は、本会の目的に賛同する大学、学校、官公庁に所属する個人で会長が認めた者、または事業体に所属する個人で、後者の場合はその事業体が事業体会員として入会していることを条件とする。</p> <p>(2)を新規に追加 (2) 第6条あるいは第7条(1)で登録された会員は、所属する事業体を離職した場合に、会員としての在籍期間が原則として3年以上経過し、かつ会長が認めた場合には、個人会員として継続することができる。</p> <p>第8条 変更なし</p> <p>第9条に入退会の規定を新規に追加 第9条 本会への入会登録または退会する場合には、所定の用紙を提出し、所定の手続きを受けなければならない。</p> <p>第10条に現行の第9条変更して移動 第10条 会員は機関誌の配布を受け、また本会主催の全ての事業に参加することができる。</p> <p>第11条に現行の第10条を移動 第11条 会費は年会費とし、事業体会員会費と個人会員会費の2種類とする。</p> <p>第12条に現行の第11条を移動 第12条 会費に関する細則については別に定め、その改定は役員会の審議を経て総会の承認を得る。</p>	<p>第6条 事業体会員は、本会の目的に賛同する事業体で、1社3名まで登録できる。</p> <p>第7条 個人会員は、本会の目的に賛同する大学、学校、官公庁に所属する個人で会長が認めた者、または事業体に所属する個人で、後者の場合はその事業体が事業体会員として入会していることを条件とする。</p> <p>第8条 名誉会員は、本会の運営または会務について特に功績があり、役員会で承認された個人とする。</p> <p>第9条 会員は機関紙の配布を受け、また学術集会における発表および機関紙へ投稿することができる。</p>

平成 15 年 4 月 15 日

製剤機械技術研究会

役員名簿

(五十音順)

会 長 寺 田 勝 英 (東邦大学 薬学部 教授)

副 会 長 愛 知 紘 治 (大正製薬(株) 海外商品開発室)

副 会 長 小野里 公 重 (元 エーザイ(株)取締役)

副 会 長 松 田 芳 久 (神戸薬科大学 教授)

常任委員 安 藤 英 信 (エーザイ(株) 製剤研究所 工業化センター センター長)

常任委員 川 島 嘉 明 (岐阜薬科大学 教授)

常任委員 草 井 章 (三共(株) 製品開発研究所 所長)

常任委員 佐 藤 耕 治 (塩野義製薬(株) 製造本部 製造技術部 部長)

常任委員 園 部 尚 (静岡県立大学 薬学部 教授)

常任委員 高 嶋 武 志 (株)パウレック 代表取締役社長)

常任委員 高 山 幸 三 (星薬科大学 教授)

常任委員 檀 上 和 美 (名城大学 薬学部 教授)

常任委員 寺 菌 隆 (中外製薬(株) 松永工場 工場長)

常任委員 服 部 宗 孝 (山之内製薬(株) 製剤技術研究所 所長)

常任委員 伏 島 靖 豊 (フロイント産業(株) 代表取締役会長)

常任委員 山 本 洋 司 (第一製薬(株) 大阪工場 工場長)

委 員 大 塚 史 久 (大成建設(株) エンジニアリング本部 副本部長)

委 員 釜 田 哲 郎 (不二パウダル(株) 営業開発部 次長)

委 員 鯉 田 義 之 (田辺製薬(株) 大阪工場 品質保証部 部長)

- 委員 島田 啓司 (㈱菊水製作所 代表取締役社長)
- 委員 藤田 定明 (藤沢薬品工業㈱ 生産技術部 部長)
- 委員 高橋 治 (サクラ精機㈱ 商品開発部 開発課 マネージャー)
- 委員 高橋 正人 (大正製薬㈱ 生産第一研究室 室長)
- 委員 高木 和行 (みづほ工業㈱ 常務取締役)
- 委員 武田 豊彦 (石川島プラントエンジニアリング㈱ I N E事業部 顧問)
- 委員 徳丸 周一 (日揮㈱ 産業プロジェクト本部)
- 委員 中島 新一郎 (医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構 顧問)
- 委員 中村 利夫 (大塚製薬㈱ 生産本部 生産技術部 次長)
- 委員 今井 良則 (ノバルティスファーマ㈱ 篠山工場 生産本部 製造部長)
- 委員 畑 洋三 (㈱畑鐵工所 代表取締役社長)
- 委員 花村 聡 (㈱ツムラ 研究本部 製剤品質研究所 グループ長)
- 委員 本多 清 (CKD㈱ 小牧自動機械事業所 取締役 事業所長)
- 委員 松本 治 (千代田化工建設㈱ 医薬品エンジニアリング部 技師長)
- 委員 三浦 浩一 (㈱ミューチュアル 代表取締役専務)
- 委員 宮田 清巳 (ホソカワミクロン㈱ 取締役 東京支店長)
- 委員 山戸 富士樹 (大日本製薬㈱ 生産技術研究所 所長)
-

監事 砂田 久一 (名城大学 薬学部 教授)

監事 猪狩 康孝 (武田薬品工業㈱ 製薬本部 製剤研究所 所長)

名誉会長 仲井 由宣 (千葉大学 名誉教授)

顧問 杉原 正泰

顧問 山本 恵司 (千葉大学大学院 薬学研究院長 教授)
